

# BBS会会長賞

堺市立 金岡小学校 六年

伊 東 桃 夏

## 偏見や差別のない社会

「社会を明るくするってなんだろう。」

私は、道徳の学習や平和学習、犯罪防止教室を通して、社会を明るくすることについて考えました。

私が思う明るい社会とは、偏見や差別のない社会です。偏見や差別は、言ったりしたりしている本人は何とも思っていないと思いますが、言われたりされたりした側は、相手が思っている以上に傷つくし、傷つけられると思います。でも、そんな偏見や差別を少しでも減らすことができれば、その分、助けられる人がたくさんいると思うのです。そうすれば、私が思う明るい社会に、だんだんと近づけるんじゃないかなと考えたのです。

最近のテレビや新聞などのニュースから、コロナ差別が取り上げられているのを見たり聞いたりしたことがあります。コロナにかかってしまった人に対しての偏見や差別があるということです。確かに、コロナがうつるかもしれないと考えてしまうのは、私自身も考えてしまうときもあるので、不安になる気持ちは分かる気がします。でも、不安だからといって必要以上にさげたり、不安に思ったことを

実際に態度に表して、行動に移したりするのは少しちがうと思います。もし、行動に移してしまったら、コロナにかかってしまった人は、かかりたくてかかったわけではないのに、さけられたり、思い込みでいろいろ言われたりして、かなり傷つくのではないかと思います。

また、犯罪を犯してしまった人への偏見や差別も多いのではないかと思います。犯罪を犯すということは、何かしてはいけないことをしてしまったということ。でも、それをつぐなって、反省した後に、差別するのはちがうと思います。一度犯罪を犯したら、まわりみんなからの信頼が一気に無くなってしまいます。犯罪を犯すことは悪いことかもしれませんが、大体の人は、また、信頼されるように努力していると思います。その努力を知りもせず、差別という形で全否定されたら、とても悲しいと思います。そしたら、また居場所がなくなつて、犯罪を犯してしまうのではないかと私は思います。だから、犯罪という行動は否定しても、その人の人となりの全てを否定してしまうのはちがうと思うのです。犯罪を犯してしまっ

た人が、もう一度社会に完全に復帰することができるよう、まわり  
の人が全力でその人をサポートしていくことができればいいので  
はないかと思えます。

私は、偏見や差別のない社会をつくりたいと思っています。しか  
し、実際には、偏見や差別がまったくなくない社会にしていくことは難  
しく、簡単にはなくせないということも分かります。でも、一人一  
人がよりよい社会について考えることができれば、いつか、私が思  
う、そして、みんなが思う、明るい社会ができるのではないかと思  
います。少しずつでも、明るい社会の実現に向けて進んでいきたい  
と思えました。

